

原発事故被災3年 「助けあって」前へ

3・11核大惨事から3年。14万人の仮設暮らし、避難生活の苦勞が続いています。残念なことに、政府や行政は経済復興優先の舵取りをすすめて、避難支援金打ち切り、子どもを持つ家族が恐れる「低線量被ばく」に目をそむけています。「2013年に入り、外部のボランティア団体が激減し、助成金の支援も極端に減少しました。県内で活動していた多くのNPOが撤退、解散を余儀なくされました」(「いのちの水」坪井代表)。

行政や大きな団体からの援助金に依らずとも、大人の「できること」を出し合い実行する。「カラッポの会」は被災者の悲鳴を聞き、共感し、居場所を「ゆずり合い」「提供しあい」「寄りそいあう」ことができます。「助ける」ことはできなくとも「手を取り合う」ことならできます。長瀬やなせ「カラッポのおうち」の春間近。「助け合って」前へ。

目に見えない放射能とのたたかいで被災者は疲れています。福島原発関連死者数は地震・津波直接死1603人を越えたとのこと。自殺の多発^{*}も悲惨です。放射能の不安だけでなく、家族や地域コミュニティ崩壊による社会的孤立が被災者を追い詰めています。原発事故被災3年、私たちの出番です。

※「震災関連自殺」については宮城、岩手で年を追うごとに減少していますが、福島は逆に倍増へ。原発事故災害ダメージの特徴がきわだちます。11年10人→12年13人→13年23人(警察庁統計)。「東京新聞」3/13(夕)。



現地ボランティアで心つなぐ



1月30日、福島県郡山NPO「いのちの水」を訪れ、会員4人がミネラルウォーター10トン荷下ろしボランティアを行いました。今回は、運営委員の方が購入した簡易線量計(オムロン社製)を持って行ってみました。心配していた通り、美しい那須高原が間近に迫ったあたりから、線量はあがり、郡山に入るといっそう高く0.19~0.2μシーベルトになりました。しかし、市内では、3年前のようにマスクをしている人の姿はまず見かけません。「あきらめている」(疲れてしまったのでしょうか)という印象を受けました。

到着は10時、すでに坪井先生を先頭にして荷下ろしが5~6人で開始されていました。休憩、昼食を挟みながら午後3時まで、荷下ろしをやりきりました。水の支援が途絶えて、昨年末、子どもたちの「いのち」を守るこの活動はピンチを迎えましたが、あらたに救援団体から300トンの水がとどけられるとのこと。ここ一番、踏ん張りどころ、みんなで力を合わせた一日でした。

ボランティアには、1歳と11歳のお子さんをもつ郡山のお母さんも来ていました。被災した方自身が活動をしている姿に、大変勇気づけられました。

今後も現地ボランティアを企画します。ご都合のつく会員の参加を呼びかけます。福島にはミネラルウォーターを必要としている子どもたちがたくさんいます。ペットボトル水、水缶の寄贈支援もお願いします。

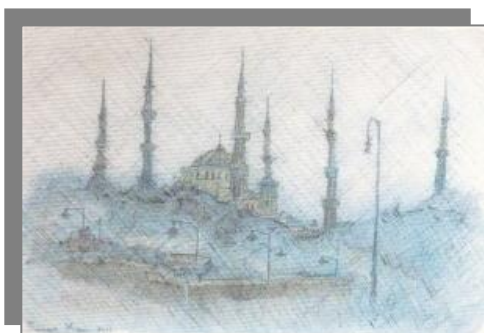
「おうち」も雪害、車庫の屋根が落ちました

2月14日から秩父地方の雪被害の報道。「おうち」は大丈夫か？との心配をいただきました。ありがとうございます。長瀬やなせの交通、アクセスは、国道にも近く孤立化など大被害はありません。ただし、急にどっさりふり、かつ一気に溶けましたから、あちこちで車庫など簡易な建て物がつぶれました。

そして「おうち」の車庫も屋根が落ちました。太い鉄柱が曲がり修復はたいへんそう（車はセーフ）。おうちの敷地には車を止めるスペースは十分あります。みんなと相談して、ゆっくりなおしましょう。



おうち支援『鈴木稔水彩画（木製パネル）展』開催中



「カラッポのおうち」別棟にて完成した作品です

「カラッポのおうち」支援の水彩画展がひらかれています。横浜市内にのこされた貴重な農地「舞岡ふるさと村」の山小屋風の空間で、ひととき都会の喧噪をお忘れください。

◇とき／3月1日～30日。木、金、土、日11時～17時

◇会場／「かねこふあ～む」喫茶”あとりえ”（横浜市戸塚区舞岡町1911）

◇行き方／①JR 戸塚駅東口からバス（江の電バス8番のりば）②市営地下鉄舞岡駅からバス（道岐橋バス停より）。【→舞岡台循環「公園前」下車3分】

【→京急ニュータウンゆき（終点・京急ニュータウン）下車5分】

第2回運営委員会 モニター募集など決める

2月26日第2回運営委員会をひらき春季の活動について相談しました。年次方針「利用を軌道に！」の具体化として、これまで知り合ったお母さんたちなどに声かけし「モニター」利用をしていただくことにしました（さっそく、3月15～16日福島からお子さんの演奏会のため上京する方から応募あり）。

また運営委員などが会員、知人友人をさそってのピクニック、バーベキューなど企画をもちこんだ「空き期間利用」を活発にしようと申し合わせました。すでに4月19～20日に空き期間利用の予約、6月29日にはケーナ教室など利用予約が入っています。

★大人の気持ち

（カラッポの家宿泊体験記）

一年前訪ねた時は、雑然とした埃だらけの家屋でしたが、一年後の今は家主さんの努力と多くの方々の協力で見違えるような家に生まれ変わっていて驚きました▼大きなテーブルを囲んでの食事は会話も弾み、庭越しに見える秩父鉄道にはSLが走り、夜はフカフカの布団で夢の中。山々から朝日が昇りきった頃に目覚めて一日の予定を考える、あくまでもものんびりのんびり▼今回は大人四名の泊まりでしたが、子どもと一緒に宿泊体験はどうなるかを考えて見ました▼庭でドッジボールや縄跳び、箱庭作りにままごと等々、昔ながらの遊びに興じ、ドラム缶でのたき火で焼芋作り、おやつはこれで決まり▼たき火の燃料は、線路の向こう側にあるチップ工場で分けてもらえたら嬉しいですね。お腹が空いたら、近くの南商店で秩父名産のこんにやくにお酒を購入、足りない分は少し離れた市場に自転車で買い物▼国道一四〇号を走る秩父セメントを積んだダンプとマチャリの競争はスリル満点です。そんな普通の暮らしが出来そうカラッポの家でした。

【エミ子】

長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会・事務局 ◆連絡電話（FAXも） 045-933-1792（管理人 杉村長世）

◆郵便振込口座 00250-9-136022 カラッポの会 ◆ゆう貯口座 10210-3511241 杉村葉子

◆e-mail karapponouti@gmail.com ◆ホームページ検索は「カラッポのおうち」で検索

※ 管理人への連絡はできるだけメールか郵便（226-0021 横浜市緑区北八朔町1842-4）にてお願いします。